ボランティアによる防護柵設置 みんなでやるシカない

シカ9千頭捕獲

市では、シカを適正頭数まで減らすことを目的としてシカの捕獲を行っています。狩猟者の協力を得るとともに、捕獲に対する支援を拡充し、平成19年度から平成24年度までに9240頭が捕獲されました。しかし、被害は減少に向かうことなく、むしろ増えているような状態です。

シカは狩猟の際に、周辺の市町村に逃げ込み、再び戻って来ていることも十分に考えられます。そこで、平成19年度から、周辺の市町村と連携した一斉捕獲も行いましたが、十分な成果が得られませんでした。

新たな捕獲の担い手確保

平成25年3月現在、市内の狩猟者は217人です。平均年齢は約65歳と高齢化が進んでいます。このような現状を踏まえて、新たな捕獲の担い手確保に向け、狩猟免許試験予備講習会の受講料に対して補助しています。また、第一種狩猟免許取得に対する補助も行っています。（8ジペー関連記事）

三嶺周辺へ防護柵の設置

シカの食害から三嶺周辺の森を守るため、平成19年に民間団体等が主体となって**三嶺の森をまもるみんなの会**が設立されました。

同会を中心に、高知中部森林管理署・高知県・流域3市（南国市・香南市・香美市）の共催により、カヤハゲや韮生越等へボランティアにより防護柵を設置したり、樹木の周囲をシカから守るネットを巻く作業が年に3～4回行われています。（写真①②）防護柵を設置した結果、柵内では植生の回復が見られています。（写真⑤⑥）

被害防護柵・捕獲檻の設置推進

市では、シカを含む有害獣の農林作物への被害を防ぐために、防護柵用の資材や捕獲用の檻を購入する費用の一部を補助しています。

しかし、柵を設置した箇所では被害が減少しているものの、柵外で被害が拡大しています。このため、集落単位での被害防護柵設置を推進しており、今年度は、補助金の予算額を去年度の520万円から2303万円に増額し、補助率も上げました。

また、平成19年から、香美市に隣接する徳島県那賀町と共同で阿佐地域鳥獣害防止広域対策協議会を設立し、有害獣被害防止対策の講習会や、狩猟技術向上を目的とした射撃講習会を行っています。

刈り払いをしましょう！

シカは体を見られることを嫌います。集落・農地周辺の山林や耕作放棄地では、伐採や刈り払いを行い、シカの隠れ場・通り道・エサ場にならないように、明るく見通しのよい環境をつくりましょう。

果樹や野菜のクズを捨てないで！

シカが人間の作った栄養価の高い食べ物を食べることで、栄養状態が良くなり、出産時期が早まって頭数が増加していくというサイクルが確立されています。収穫して余った果樹や野菜のくずを田畑や森林に捨てないでください。このゴミがシカを集落に引き寄せる最大の要因となっています。

①ボランティアによる防護柵の設置。資材を抱えての登山②木の幹をネットで保護。奥の木は食害により無残な姿になっている③西熊に設置されている囲いわな④囲いわなにかかったシカ⑤四角の緑は防護柵内で回復した植生⑥5年前に設置した防護柵内では緑が背丈を越え、ひしめきあっている⑦補助金によって設置されたユズを守る防護柵⑧同じく畑を守る防護柵

三嶺の森をまもるみんなの会ではボランティアを募集しています。興味のある方は、事務局＝坂本☎088－850－0102または代表＝依光☎56－2366まで

三嶺の森をまもるみんなの会
代表 依光（よりみつ） 良三（りょうぞう）
高知大学名誉教授。代表として防護柵の設置を行っているほか、シカ被害を考えるシンポジウムや講演会を開催している。

被害防護柵 捕獲檻 購入補助金

補助金を活用して
被害を防ごう

©やなせたかし ゆずぼうや

農作物を有害獣被害から守る防護柵用の資材等を購入する場合、予算の範囲内で購入費の一部を補助する制度があります。

申請は、防護柵等を設置する前に市役所の本庁・各支所で申請手続きを行ってください。防護柵等を設置してから申請しても補助の対象となりません。

個人・団体の方（農林業者等）

■新規防護柵
▷補助率＝購入費の2分の1以内（5万円まで）
▷対象獣＝イノシシ・ニホンジカ・サル

■新規ステンレス線入りネット防護柵・新規金網防護柵
▷補助率＝購入費の6分の5以内（50万円まで）
▷対象＝ニホンジカ

団体の方のみ（2戸以上が所有する一続きの農地で、その受益面積が10アール以上の農業者団体等）

■新規防護柵※
▷補助率＝購入費の4分の3以内（50万円まで）
▷対象獣＝イノシシ・ニホンジカ・サル
※防護柵の種類は、トタン・ネット・電気・有刺鉄線・鉄線・その他

■新規捕獲檻
▷補助率＝購入費の3分の2以内（6万6千円まで）
▷対象＝ニホンジカ

■問い合わせ先
産業振興課　総務班
☎53－1062